2026年6月15日号（通巻138号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

市民サービス向上のため 綾部市立病院に「デジタルサイネージ」を寄贈しました

日東精工は2020年にメディカル事業を立ち上げ、医療分野をファスナー、産機、制御システムに次ぐ第四の柱として研究開発、製品販売を進めております。さて、今般、当社が本社をおく綾部市の綾部市立病院へ「デジタルサイネージ」を寄贈。4月22日に同病院にて、寄贈受領式・除幕式が執り行われました。

「デジタルサイネージ」はまだ耳慣れない言葉ですが、ひと言でいえば液晶や有機ＥＬを使った大型電子掲示板で、最近では空港やターミナル駅、大型商業施設やレジャー施設などでも見かけるようになっています。かつてポスターが貼られていたスペースに置き換えられ設置されていることも多いよう。紙のポスターであれば、印刷された一つの情報掲載にとどまるところ、「デジタルサイネージ」では一定間隔で画面を切り替えることでたくさんの情報を発信でき、情報の更新も容易です。そして静止画だけでなく動画なども映し出すことができるのです。

病院やクリニック向けで考えるなら、診療科の場所案内、フロア案内、受付番号の呼び出し、混雑状況の表示などに利用されるほか、待合室などで健康情報や院内のお知らせ、季節の情報などの動画やスライドなどを流すことで、体感待ち時間の短縮(待ち時間のストレス軽減)などに貢献できるものです。またコンテンツのひとつには日東精工の情報も加えてありますので、市民の皆様への当社事業アピールにもつながります。

綾部市立病院は1990年（平成2年）8月、それまで綾部市内で重要な役割を果たしてきたグンゼ病院の後を継ぐ形で綾部市が設立。綾部市内の医療の中心を担い続けています。創業35年の節目の年に、日東精工では綾部市立病院のデジタル化、ならびに患者さんへの利便性、市民サービスの向上に寄与するべく「デジタルサイネージ」を12台寄贈させていただきました。社是である「我らの信条」には〈社会に貢献する〉があり、当社ではこれまでも市民ホールや市民球場のネーミングライツに協力したり、先月号でお伝えした「あやべ水源の里トレイルラン」の特別協賛をはじめ、さまざまな地域イベントに協力を続けております。これからも事業を通して社会に貢献し、得た成果を地域社会に還元してまいります。

当社代表取締役社長荒賀誠から四方源太郎綾部市長へ目録を贈呈

出席者は左から井伊庸弘綾部市立病院院長、綾部市医療公社山﨑清吾理事長、四方源太郎綾部市長、当社代表取締役社長 荒賀誠、当社メディカル新規事業部事業部長 桐村和也

寄贈された「デジタルサイネージ」は正面玄関には吊り下げ型、再来受付機の横にはスタンド式、薬局横には壁付けという形で、設置場所に合わせて計12台を寄贈

新しいWebメディア『京都リーダーズ』に当社代表取締役社長荒賀誠のインタビューが掲載！

『京都リーダーズ』は変革・挑戦・創造をテーマに、京都の企業や団体、地域のさらなる発展、それらを先導するリーダーを応援するWebメディアです。プロバスケットボールチーム、Bリーグ所属の京都ハンナリーズを運営するスポーツコミュニケーションKYOTO(株)が主体となり新しく立ち上がったものです。
この『京都リーダーズ』から、今般、当社代表取締役社長荒賀誠が取材を受け、その内容が4月14日から一般公開されています。

このインタビューの締めくくり部分をここに転載すると……

――これからの時代を担う若手リーダーやビジネスパーソンへアドバイスをお願いします。

荒賀　まずは「一流に触れること」を大切にしてください。一流のものに接することで、自分自身の基準が高まります。そして、誰にも負けない努力をすること。多くの人が努力をしていますが、最後に勝負を決めるのは、誰にも負けないという強い意志を持った圧倒的な努力です。また、前向きに生きる姿勢を忘れないでください。ポジティブな人のもとにこそ、夢の実現は近づいてきます。

――何をやってもうまくいかないと感じている人には、どう言葉をかけますか。

荒賀　そのときは、飛行機を思い出してほしいですね。飛行機は追い風ではなく、「向かい風」を受けてこそ離陸し、高く飛び上がることができます。困難や逆風は、次のステージへ高く飛翔するためのチャンスにほかなりません。ヨットも、追い風より斜め前方からの風をうまく受けたときがもっとも速く進みます。今の苦しみは、未来の大きな進化のための原動力になります。失敗を恐れず、自信を持って挑戦を続けてください。

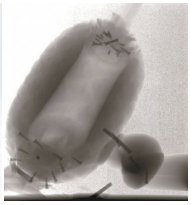
★

そのほかにも、〈創業者がいない？ 地域課題から生まれた88年の歩みと事業の多角化〉〈長期経営計画とM&Aで加速するグローバル戦略――「収益力」への大転換〉〈人事畑で培った「現場ファースト」のリーダーシップ〉〈イノベーションの再定義と「失敗を許容する」組織文化〉〈人口3万人の綾部市から世界へネーミングライツに込めた思い〉〈100年、200年続く「なくてはならない会社」を目指して〉……と6つの見出しを立てて、荒賀の想いを丁寧にまとめてご紹介いただいています。右のQRコードから『京都リーダーズ』のサイトで全文をお読みいただくことができますので、ぜひご高覧ください。

ねじ大好き！ コラム　NHKの『日曜美術館』で紹介されたアートに隠された「ねじ」

東京藝術大学大学美術館で「NHK日曜美術館50年展」が6月21日まで開催されています。先日、その特集番組で、弟子をとらなかったことで制作過程が不明で技術が伝承されなかった例として安藤緑山の象牙の作品が紹介されていました。緑山は明治18年生まれ。大正から昭和初期に象牙彫刻（当時の呼称は牙彫（げちょう））の分野で活躍し、野菜や果物を中心に多くの作品を制作。右の画像のパイナップルやバナナはホンモノと見分けがつかないぐらい精緻にできているのですが、象牙にどのように色をつけたのか着色技法は今もわからないようです。

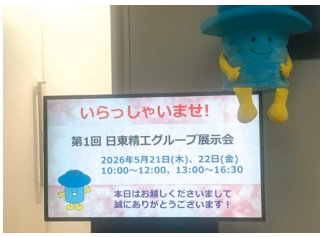
ただ、番組内では紹介されませんでしたが、じつはこの超絶技巧のベースには「ねじ」が使用されていたと近年の研究でわかっています。X線で撮影したものを見るとそれがよくわかります。当社代表取締役会長 材木正己の著書『絆経営で目指す新しい地方創生～心のねじがキュキュッと締まるビジネスのヒント』の巻末でもこの作品を紹介していますが、ねじはアートも支えている、これは確かなことです！



画像「南國珍果」（「清水三年坂美術館」京都市東山区清水寺門前産寧坂北入ル 所蔵）。X線写真CT画像は国立民族博物館撮影。なお、「NHK日曜美術館50年展」での展示作品は別のもの

「日曜美術館50年展」は東京の後、静岡、大阪と巡回予定

当社東日本支店にて日東精工グループ展示会を開催



当社東日本支店は昨年3月に新横浜に移転していますが、ここにリニューアル、充実させたショールームや商談スペースを利用して、今般、「日東精工グループ展示会」を開催しました（5月21日、22日）。日東精工および当社グループ6社（ケーエム精工㈱／㈱伸和精工／東洋圧造㈱／和光㈱／松浦屋㈱／㈱協栄製作所）の製品展示・デモンストレーションなどを実施。

当社では国内外のさまざまな展示会に出展し、製品の素晴らしさや技術の高さを広く訴求していますが、今回は大きな会場ではなく、各社のお得意様をお招きし、日東精工グループとしての強みや潜在力などをより丁寧に深堀りしながらご説明させていただきました。

現場地耐力試験装置「GeoJudge™」販売を開始しました

すでに本欄でも事前ご紹介をしてきましたが、大型建設機械の地盤沈下による転倒リスクを短時間で評価できる「GeoJudge（ジオジャッジ）」を6月1日から販売を開始しました。

工事現場でクレーンなどを設置する際、地盤を計測することがリスク回避につながりますが、従来の計測法（平板載荷試験）は時間がかかることがネックでした。当社制御システム事業本部が厚生労働省所管の「労働安全衛生総合研究所（JNIOSH）」協力のもと開発した「GeoJudge」（現場地耐力試験）では、1回当たり20分で、従来の試験の8分の1も大幅時間短縮が可能となりました。当社製品である宅地用地盤調査機「ジオカルテ」で積み上げた実績や知見をベースに操作性などにも優れた新製品です。

6月1日「ねじの日」にちなみカプセルトイ（ガチャガチャ）を販売

6月1日は「ねじの日」です。日本ねじ工業協会がねじの重要性を広く知ってもらうために定めた記念日で、当社でもこの趣旨に賛同し、毎年、さまざまな企画を実施しています。昨年はこの記念日にちなみ当社マスコットキャラクター「ねじっとくん」のドットLINEスタンプを発売。一昨年は当社本社の外壁をキャンバスにして綾部高校美術部生徒さんに「ねじっとくん」も登場するウオールアートを描いてもらいました。そして、2026年、今年はねじの日にちなんで「ねじっとくん」のカプセルトイ（「ガチャガチャ」で購入できるおもちゃ）」を販売することをリリースしました。綾部市内の商業施設でも展開予定です。

製品見本。製品と写真は一部異なる場合があります

由良川花壇展、そしてあやべ丹の国まつりに協賛しました

当社が本社をおくあやべでは毎年4月の終わりに「由良川花壇展」が開催されます。これはあやべの企業や団体、学校などがそれぞれ、由良川の河川敷に整備された花壇に自分たちで決めたテーマで草花を植栽し、その内容を競い合うもの。当社ではこの花壇展参加を新入社員の研修のひとつとしており、今年も13名の新人が話し合ってテーマやデザインを決め、それぞれ役割分担をしながら参加しました。また4月29日は「あやべ丹の国まつり」も開催され、今年は地元企業として日東精工・日東公進・東陽精工・ニッセイのグループ4社で協賛。「しごと発見！オープンファクトリー　～見て・知って・体験する まちの仕事～」で配布される「令和8年度あやべ丹の国まつり企業ガイド」に、企業情報を掲載いただきました。

誠の言霊（ことば）㊳

看脚下

代表取締役社長　荒賀 誠

NHK朝の連ドラ『風、薫る』で看護婦を目指すヒロインのひとりがobserveの意味を洋行帰りの伯爵夫人に尋ねるシーンがありました。夫人は「目をつける。じっと見ること」と伝えたのですが、「そうすると、この英文は〈よく見る看護婦とは病人をじっと見つめることすらしなくていい〉となって意味がわからない」と改めて問われ、「同じ『見る』でも『知らないうちに目に入る（see）』、『しっかり見つめる（watch）』、observeは包み込むように見続ける……」と夫人はそれぞれのニュアンスの違いを教えます。

そして、「看護婦にとってそんなに見ることが大切なのですか?」との投げかけに「看護の『看』という字は『手』と『目』を組み合わせてできていて、『看（み）る』とも言うでしょう」と、看ることの本質を伝えていました。

当社の『人生の「ねじ」を巻く77の教え』にも、「思う」と「考える」の違い、「チャンス」と「オポテュニティ」の違いを解説するものがありますが、言葉を丁寧に見直していくと、似て非なるものが理解でき、本質がよりはっきりしてきます。

「看脚下（かんきゃっか）」は禅の言葉で、「足元に気をつけて」という意味。そして、「脚下照顧」。これも「足元を見直し脱いだ靴を揃えよ」という禅語ですが、じつはどちらも「今の自分に間違いはないか、振り返ってみなさい」という深い教えなのです。

「幸せ」を見つけるヒント　6月

日本一の鮎

鮎は生まれたときは「氷魚」、春先には「小鮎」、そして梅雨ごろに一人前の「鮎」になり、夏に成長して「大鮎」と呼ばれるようになります。鮎は川の流れにもまれながら成長するので、じつは流れのない琵琶湖の鮎はあまり大きくならないそうです。

琵琶湖の鮎もそれはそれで味わいがありますが、今の季節は大きく育った「鮎」がおすすめ。激流に耐えて成長していく鮎の姿を思い浮かべ、そこに人生を重ね合わせていくとより美味に感じることでしょう。

鮎の竿釣りが解禁になりました。当社が本社をおくあやべ・丹波の由良川は、とくに和知から山家にかけては急流で和知川とも呼ばれたのですが、この地で獲れた鮎をかつて北大路魯山人は〈日本一〉と称しました。あやべは人口3万弱の小さなまちにもかかわらず、料理旅館が５軒と充実しています。ぜひあやべにお越しいただき美味しい鮎を召し上がってください。

日東精工代表取締役会長　綾部商工会議所会頭　材木正己

発行：日東精工株式会社経営管理本部経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます